

# 支所・駐在員事務所を尋ねて(3) 名古屋駐在員事務所

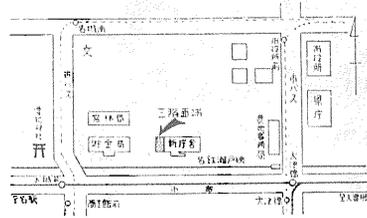
名古屋駐在員事務所は 地質調査所の一部として その使命と方針に従って 東海北陸地方を分担している

国土の開発とか利用 保全 防災等に関する近代的基礎的資料のほか 資源や地質図幅作成に伴う基本的な業務について 広く資料の収集 総合 作成と提供を使命とし 管区内現地の事情を反映させて 調査技術の開発と向上を計る方針に参同している。

管掌する範囲は 名古屋通商産業局管内と同じく「愛知・三重・岐阜・富山・石川」の5県下で 地理学的には本州の中央部を占め 北は能登半島の北方海上にある触倉島から 南は紀州南端熊野川河口までにわたる。この間 北半中央には飛驒山地があり 南半には紀伊熊野の山地がある。飛驒山地を中心として 標高 2,000 m 以上の山嶺50座以上 国内でも最も高峻な地域をもっている。このような地理的な条件の場を管区として 行政・産業・学術等の地理学資料をつくり出すことも業務の1つであるが とくに現地性を吸収し 則応することに意義をもっている。

業務としては 各界の要請に応じるための受託調査の受け付け 中小鉱山の技術指導・相談業務を担当し 現地特性を生かした応急調査に重点を置いている。

資源では 管内産業を反映して窯業原料に関する問題が多く 最近の経済事情からこの傾向は一層いちじるしくなっている。岐阜・三重両県方面におけるドロマイト 石灰資源の内とくにドロマイトは確認されてから近々7~8年間に年産14万余トンに達している。ま



位置：名古屋市中区南外堀町6の1

通商産業局合同庁舎

地質調査所 名古屋駐在員事務所 Tel (94) 6416

交通 市電 名古屋駅→大津橋または名城前 下車3分

市バス 東庁・市役所前または名城前 下車5分

た最も重要な窯業原料資源である 木節粘土や蛭目粘土については 分布の実態を把握すると共に 今後のあり方の進路に何等かの目標になるよう努めている。

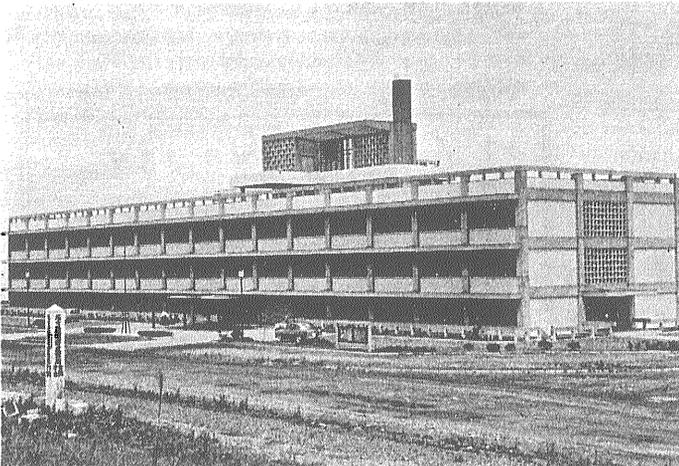
研究室においては 一般的な問題はもちろん 特殊性を加味した問題にも対応できるよう 整備に努めるばかりでなく資料の総合・整理にも努めている。これらの資料は 収集している文献と共に 一般に解放閲覧に供している。鉱物・鉱石の鑑定等を含めて 相談業務には他の公立研究機関ともできるだけ連絡して 遺漏のないようにしている。また未利用の資源については強い関心をもっている。人員・設備の上で十分外部の期待に答えられぬうらみがあるが 逐次改善されつつある。

構 成 現在 事務所長以下6名

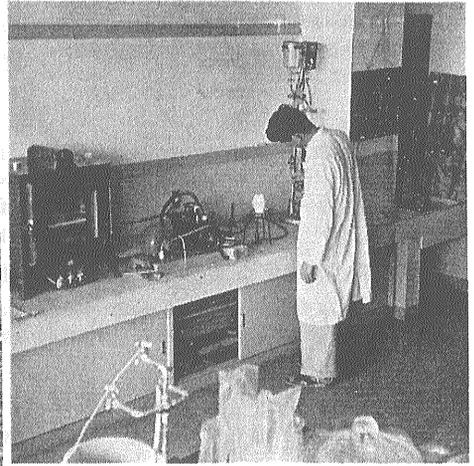
他に地質調査所内外からの兼任者7名

設 備 鉱物分離分級装置・示差熱分析装置

顕微鏡類による一般的研究設備 その他化学的な定性・半定量程度の設備があり 将来 X線分析装置等の近代設備によって 迅速かつ効果的な資料の供与が考えられている



合同庁舎全景



研究室の一部